



第4回 定例会

議会

12月11日に招集された第4回定例町議会は、12月14日、全日程を終えて閉会しました。今定例会では、小竹町長、杉本教育長の行政報告のほか、平成24年度の補正予算案等が審議されました。その主な内容についてお知らせいたします。

人

事

●固定資産評価審査委員会委員の選任
12月23日をもって任期満了となる眞野康彦委員の後任に、引き続き同氏が選任同意されました。

補正予算

●平成24年度一般会計
平成24年度新冠町一般会計予算は、既定の歳入歳出予算額に3972万8千円を追加し、総額を54億2454万1千円としました。

《歳出補正の主なもの》

生活路線バス維持費補助金	938万円
水川生活センター用地購入費	417万円
乗馬施設移転計画経営分析調査業務委託料	263万円
住宅リフォーム助成金	700万円
学校管理用備品購入費	102万円

町長行政報告

●11月27日発生暴風被害
11月26日夜半から27日の午前中にかけて、発達した低気圧が北海道上

空を通過した結果、日高地方では観測地点4か所で最大風速の観測記録を更新するなど、暴風による被害が各地で発生いたしました。
えりも町えりも岬では最大瞬間風速が42.1メートルを記録し、新ひだか町でも観測史上最大の27.9メートルを記録したとのことであり、11月26日、午後9時過ぎには暴風波浪警報が発令されましたが、新冠町におきましても27日早朝から倒木による交通障害の報告が入り始めたことから、町道のパトロールを開始し、同時に交通事故防止と交通の確保を図るため、町内事業者の協力を得ながら倒木処理を行ったところであります。



▲暴風で破損した本町多目的交流センターの屋根

また、破損した屋根や倒木により電線が断線したことにより節婦地区400世帯、高江から新冠沢にかけて一部地域の250世帯で停電となり、住民の生活への影響も心配されましたが高江から新冠沢にかけては8時20分、節婦地区も11時40分には完全復旧することができ深刻な事態に至ることはありませんでした。
27日の午後には風も収まり被災状況を確認したところ、公共施設や民間施設を含めて被害が発生してありますので暴風被害の状況について報告をいたします。

まず、公共施設の建築物の被害ですが暴風による屋根破損や看板倒壊、車庫のシャッター破損、公営住宅の灯油タンク囲いの倒壊等の被害が25件、町道関係では倒木による交通障害発生が10件、崩土除去等3件となっており、これらの被害総額は概算で986万7千円となっております。

おり、この度の暴風による被害総額はおよそ1531万7千円となっております。

また、早朝から風が強まった27日は通園・通学する子どもたちの安全を考慮し小中学校は臨時休校、認定こども園ド・レ・ミは臨時休園とし、デイサービスセンターについても利用者の送迎の安全を考慮し臨時休業の措置をとりました。

以上のように公共施設等で暴風による被害が発生したり、一部サービスの利用ができない事態にはなりましたが、幸いにも大きな事故や被害に至ることはありませんでした。

なお、この度の暴風災害における公共施設の災害復旧経費については、本定例会に追加補正予算として提案する予定としております。

平成24年度一次産業の概況

新冠町農協及びひだか漁協取り扱いの販売実績によりご報告申し上げます。

《農産部門》

水稲は全道的に作柄が良く、本年の作柄は「やや良」という結果でありましたが、本町では良品質となりましたものの、収量は前年を若干下回り、反収は前年比約0.9%減の316キロとなりましたが、販売単価は12.

4%増のキロ当たり223円となり、販売額も1380万7661円増の1億5561万832円となりました。ところで、
なお、一等米出荷比率においては、穀類集出荷施設の能力が活かされ、今年度も全量100%となり単価の向上に寄与しているところであります。
《と菜部門》
そ菜関係の総販売額は、前年を274万9050円上回る4億7752万5442円となっております。
基幹作目でありますピーマンは、作付農家が4戸増え、作付面積、収量ともに前年を上回りましたが、販売単価が前年並みの金額に下がったため、販売額は前年比1.6%減の3億6146万8958円となっております。

《軽種馬部門》

軽種馬生産であります。市場の取引販売実績では売却頭数は182頭で前年比10頭の減となりましたが、売却率においては1.7%増、売却額では993万円増の7億9129万5千円となりました。
一頭平均価格では、前年を27万8千円上回り、434万8千円となりましたが、市場上場に係る検査経費やコンサイナー、種付け料など様々



▲町有牧野で肥育されている黒毛和牛

な生産コストが上昇傾向にあり、経営を圧迫している状況になっております。
《酪農部門》
酪農においては、生産戸数が1戸減少しましたが、飼養頭数が増加したことから、乳量は前年より85トン多い8764トンとなり、乳代も2995万9千円多い6億8561万4千円となっております。

《肉用牛部門》

肉用牛においては、主力の黒毛和牛の素牛販売において、売却頭数が前年より5頭少ない1036頭になったものの、売却単価が増加し、販売額は前年より2898万1千円多い4億4255万8千円となっております。

肥育牛販売においては、肥育頭数の増頭が進み前年対比41頭増の143頭、販売額では3325万6千円多い1億1621万5千円となりました。
交雑種においては、素牛と肥育の販売頭数及び販売額ともに前年度を上回り、素牛の販売頭数は前年対比202頭増の841頭、販売額は1億6297万7千円で、肥育牛は前年対比20頭増の58頭、販売額は2294万円となりました。

《水産部門》

本年11月までの魚種別漁獲状況は、カレイ、シシャモなどの漁獲高が大幅に減少し、主力の秋サケにおいても海水温が高かったことにより漁獲量が前年の59.8%の270.2トンで、販売額は44.1%減の1億3737万1千円であります。

また、増殖事業を強化しております。また、増殖事業を強化しております。また、増殖事業を強化しております。また、増殖事業を強化しております。また、増殖事業を強化しております。

内科医師の採用

国保診療所の診療体制は、内科医師2名、外科医師1名の計3名の常勤医師により、内科・小児科・整形